



平和について考える（3）

8月6日の広島で行われた「78回目 広島原爆の日」平和記念式典での子ども代表による、平和への誓いを紹介しましょう。

みなさんにとって「平和」とは何ですか。

争いや戦争がないこと。

差別をせず、違いを認め合うこと。

悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。

身近なところにも、たくさん平和があります。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。

皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に浮かぶ死体。

子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて」と、叫び続ける母親。

たった一発の爆弾により、一瞬にして広島のみちは破壊され、悲しみで埋め尽くされました。

「なぜ、自分は生き残ったのか」

仲間を失った私の曾祖父は、そう言って自分を責めました。

原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。

あれから78年がたちました。

今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。

「生き残ってくれてありがとう」

命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。

自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。

友だちのよいところを見つけること。

みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

今、平和への思いを一つにするときです。

被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。

身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。

誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。

子ども代表 平和への誓い（全文）

平和は、誰もが願うことでしょう。しかし、昨年2月から始まった、ロシア・ウクライナ戦争は終わりません。また、世界中で多くの紛争も起きています。自国の利益だけを考え、他者の苦しみを理解しない人々が起こしているものなのでしょう。日本には他者の幸せを願う「利他の精神」があります。世界中でこの「利他の精神」が理解できる人たちが多くなることを願うばかりです。